

動物看護師に必要な救急医療スキル

○永井 貴志

イオン動物医療センター幕張新都心

千葉科学大学 危機管理学部 動物危機管理学科

はじめに

2019年6月に「愛玩動物看護師法」が成立し、今後動物看護師は専門職として業務を行っていく必要があります。救急医療においては単なる獣医師の診療サポートだけでは、刻一刻と状況が変化する現場では対応できない恐れがあるため、動物看護師は的確な判断を医療チームの一員として実施していく必要があります。

救急患者は、飼い主から電話で問い合わせ、受付・待合室に患者が到着してからの状態評価、診察室で獣医師が評価を実施して検査治療をすることになります。この一連の流れの中で動物看護師は電話対応、受付・待合室でのトリアージを実践するスキルが必要です。

24時間救急患者対応病院を運営した経験から、医療チームの一員として動物看護師に求められる救急医療スキルについてその概要をお伝えします。

テレフォントリアージ

動物医療における救急の定義は獣医師と飼い主で異なる可能性が高いが、少なくとも動物病院に電話問い合わせをしている時点で飼い主は救急かもしれないと考えていることを認識しなくてはなりません。テレフォントリアージの目的は、飼い主との会話を通して患者がすぐに獣医師による治療が必要なのかどうかを判断することです。しかしながら、実際の症例の状態は飼い主の主観が入った話からしか判断できないため、待合室や診察室でのトリアージに比べて難しい点が多々あります。救急医療を効果的に実践するために、テレフォントリアージを的確かつ迅速に行うことが動物看護師に必要不可欠なスキルです。

トリアージ

受付・待合室でのトリアージは「素早く」「正確に」患者の状態を評価し、重症度を分類しなければなりません。特に重要なのは呼吸器系・循環器系・中枢神経系の評価となります。救急医療の実践が必要な患者に対して獣医師が迅速に対応できる情報を、動物看護師が提供できるようにしなければなりません。

まとめ

救急医療はチームで一丸となって実施する医療です。動物看護師の救急医療に対するスキルが向上することで、院内で行う救急医療の質を向上させることができます。日々の業務の中で経験を積み、知識を高め、チーム力を向上させていきましょう。